

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」		
所在地	北海道札幌市西区西町北8丁目1-25 (電話) 011-661-5531		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年10月17日

## 【情報提供票より】 (平成20年8月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 2 ~ 3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~58,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷金	(有)( 55,000 ~ 58,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要 (7月29日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.1 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西町内科クリニック、ポテト歯科医院、手稲あんじゅ、手稲ロータス、真栄病院
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都市部の繁華街に位置している当事業所は、地域交流が難しいと思われる立地条件の下で、運営推進会議や日常の交流を通じて地域との関わりを効率的に行っている。地域に根ざしたクリニックと併設しており、相互効果の結果であるとともに、管理者をはじめとした職員一同による努力の成果である。外部評価を受ける意義についても真摯に受け止めており、昨年度の結果については既に改善していることもその表れである。職員資質の向上に対して、充実した内部研修会を定期的に開催し取り組んでいる。運営の歴史を重ねるごとに、今後の更なる飛躍が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価後の取り組みについては、管理者の指示の下、全職員の意識を統一して取り組み、全ての項目について改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価も回数を重ねており、同様に自己評価も複数回実施している。自己評価を運営内容の振り返りの尺度として活用しており、サービスの質の向上に表れている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、事業所職員はもとより、家族の代表・主治医・町内会長・民生委員、地域包括支援センター職員などの委員により、活発な意見交換を行うなど、積極的な取り組みをしている。また、地域交流を活性化している一つの要因が、この運営推進会議の充実にある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会を結成し、家族全体からの意見を聴く体制にある。また、個別の対応を行い、事業所運営への意見を常に掌握できるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域において一般家庭が行っている町内会活動などに、日常的に参加している。地域住民からの事業への理解もあり、ごく自然に地域と交流・連携を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年は、地域との関わりについて理念が不明確であったが、昨年の調査後に新たに理念を追加し、地域との関わりに重点を置いた事業運営を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の確認を行い、事業運営の目標を明確にして、日々のサービス提供場面に実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会主催の行事への参加や、地域住民による事業所主催の行事への参加など、相互的に協力している。災害時に向けて、防災訓練を地域住民と共に実施して一体感を強めているほか、併設のクリニックを通じて、地域住民とは日常的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員により、自己評価に取り組んでいる。前回評価における課題については改善しており、職員全体で積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・利用者家族・利用者を委員として、定期的に運営推進会議を開催している。運営推進会議開催により、地域との交流が一層充実している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市主催の管理者会議や地域ケア会議などに出席し、連携を図るとともに、日常的に行政とは連携する体制にある。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「たより」を発行し、利用者の生活の様子を家族へ伝えている。介護記録を月単位でまとめ、家族会後の個人面談の際に、報告として発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に開催し、運営に対しての意見を聴く場面があり、意見を集約し運営面に反映している。家族会の後には個人面談の時間を設け、プライバシーに配慮した意見を聴く場面の設定をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動は実施せず、利用者へのダメージを発生させないようにしている。日常的にユニット間の交流を行い、緊急事態発生時にも、利用者へ影響がないように準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加への支援を積極的に実施している。内部研修については、2週間に1度程度「学習会」を実施し、介護の専門的な学習や外部研修の報告を実施している。管理者が自ら現場職員を指導し、職員育成に重点的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加のほか、区内の他事業所と連絡を密に行い、研修会や見学会などを実施し、職員交流を行っている。また、利用者も参加できる昼食会を実施し、利用者の交流などを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や事前訪問などの、利用開始に向けた一般的なプロセスを実施している。待機状況が発生した場合には、利用者や在宅生活の状況を知る主治医、介護支援専門員等と、定期的に連絡を取っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で、利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、共に信頼し支えあう関係を形成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所としての固定した日課を策定することなく、あくまでも集団生活という視点で、利用者本位の生活支援を中心として、利用者の意向を聴きながらサービスを提供している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者・計画作成担当者・介護職員・主治医が意見を出し合い、原案をまとめている。原案を基に、利用者・家族からも意見を聴き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行い、更新している。介護度に変更になった場合や、疾病により身体能力に変化が生じた場合には、家族とも相談して介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単一の事業所であるため、多機能性を発揮する場面は少ないが、地域交流や同業者との交流を積極的に行っており、グループホーム以上の機能性を持ち合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、主治医への受診支援を実施している。また、緊急時には家族と連絡を取り合い、柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けてのマニュアル等を策定しており、主治医の管理の下で、家族の希望に沿った対応をしている。家族へは、利用開始時に意向を確認するとともに、段階的に状態の説明を実施し、同意書にて同意の確認を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の指針・マニュアルなどに基づいて対応している。利用者の尊厳を大切にしており、職員の声掛けも穏やかである。リビングからトイレが見えるために、カーテンを取り付けて、排泄への羞恥心を取り除くなどの配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内における日課等に沿う形での生活支援ではなく、利用者の希望や意思を尊重して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立については、利用者の意見や嗜好を採り入れるようにしている。食事時には、テレビを消し穏やかな音楽を流して、食事に集中できるようにし、会話にも配慮している。配膳・下膳や食事の下準備は、身体能力的に可能な利用者へ協力を依頼している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度を目安に、入浴支援を行っている。入浴の時間は、利用者の希望を聞きながら、事業所が対応できる範囲で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴は、家族からの聞き取りや利用者との日常会話から情報を得るようにしている。炊事や掃除などは、出来る範囲で利用者との協働して実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や、個人的な買い物を行うなどの日課的な外出は、利用者の状況などを見極めながら行っている。事業所としては、定期的に地域の支援を受け、地域住民も参加する形での行事を企画し実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間は防犯上の理由から施錠している。昼間は、併設のクリニックと玄関を一部共用することもあり、常に開錠しており、開放的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画の中に、防災訓練を年2回予定し、実施している。消防署・町内会とも共同で避難訓練や消火訓練を実施している。自動通報システムや緩降器具などがあり、災害への備えをしている。また、災害時における町内会との協力体制について、運営推進会議でも話し合いを行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「健康管理表」を作成し、日々のバイタルサインや排泄・入浴・食事などの、基本的な記録を残している。栄養状態については、主治医と常に意見交換ができるほか、定期的に協力医療機関の栄養士から、献立や高齢者向けの食事について指導を受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者が落ち着いて過ごせることを最優先し、穏やかに過ごせるように配慮している。利用者は、一日の大半を共用空間で過ごしており、利用者にとって居心地のよいリビングである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇・箆笥などの使い慣れた品々を持ち込んでいる。また、家族が宿泊を希望する場合は、他の利用者に迷惑が及ばない範囲で、宿泊が可能である。		

※  は、重点項目。